



仮想マシンとストレージ運用の 複雑さを一挙に解決した Tintri

理論値通りのデータ削減と
未来を予測できる分析機能が決め手

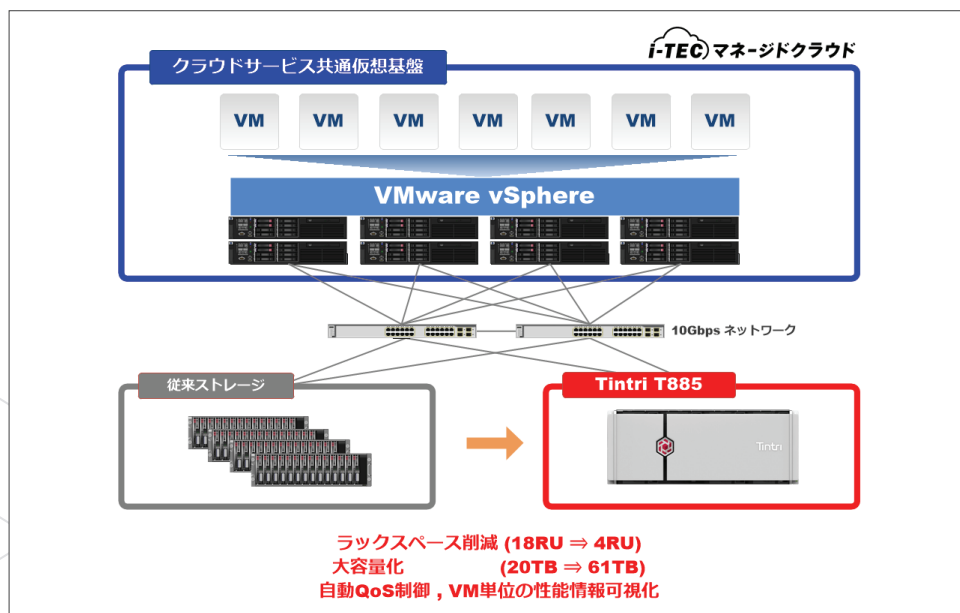
ミッションクリティカルなシステムを LAMP で実現

関西の名門球団、阪神タイガースと同じ企業グループで都市交通関連システム事業や医療システム事業、インターネット及びクラウド事業を行っているアイテック阪急阪神株式会社（以下、アイテック）は、これまでのストレージシステムを刷新し、ティントリの仮想マシン専用ストレージを本番環境に採用。従来のストレージからは容量効率と運用効率が飛躍的に上がったという。

アイテックは事業会社のバックエンドを支えるクラウド事業において早くから仮想化、そしてプラットフォームとして LAMP（Linux、Apache、MySQL、PHP）環境をメインにシステム構築を行ってきた。企業システムにおいて早い時期からオープンソースソフトウェアによるイノベーションを選択した理由のひとつは、コストであったというが、物理サーバーから仮想化とクラウドによる柔軟なコンピューティングを目指すのであれば、オープンソースはむしろ積極的に採用するべきであろう。アイテックはオープンソースソフトウェアに関して多くの知見を培ってきたといえる。近年はサーバーホスティングから PaaS までカバーするクラウド事業に重点が移行し、ますます仮想化のニーズは高くなっているという。

仮想化の盲点：ストレージ運用管理が問題点に

仮想化基盤は定評のある VMware をベースに仮想サーバーのマネージドサービスを中心に成長を続けたアイテックだが、仮想サーバーを格納するストレージに関しては従来使っていたストレージシステムをそのまま利用していた。このシステムには特に大きな問題点や障害などもなかったという。仮想サーバーを増強する際に既存システムやその後継機種を採用しない理由は無かったが、ティントリの販売パートナーである丸紅情報システムズからの「仮想化環境専用のストレージがある」という提案でひらめくものがあったと、アイテック マルチメディア事業本部 IP ソリューション部ネットワーク技術課主事の森本健一氏は語る。



アイテック阪急阪神 株式会社

業 種
情報処理事業

事業概要
社会システム基盤事業／インターネット事業／医療システム事業など

主な課題

- ・ サーバー仮想化に伴ってストレージ運用管理の効率化、可視化が問題になり、従来のストレージでは問題の切り分けが非常に困難だった
- ・ スナップショットからの復旧の処理に時間を要していた
- ・ 未来を予測したストレージの増設計画が立てられなかった

ビジネス上のメリット

- ・ 仮想マシン単位でのきめ細かな運用管理がGUIから可能になり、運用管理が効率化
- ・ スナップショットからの復旧が格段に速くなり、顧客満足度が向上
- ・ 未来を予測できるTintriアナリティクスで積極的な投資計画が可能

「システムに不満は無いものの、サーバーの処理が重くなってそれがどういう部分に影響を及ぼしているのか、仮想マシン単位でストレージの使い方を切り分けようと思っても、それまでのストレージではデバイス単位の分析しかできずに時間がかかってしまっていました」と森本氏は語る。つまり、仮想化環境において従来のストレージでは対応できないという課題を抱えていた。

仮想マシン単位で即座に運用が行えるティントリの仮想化専用ストレージ

ティントリの仮想化環境専用ストレージは仮想マシン単位でストレージを管理でき、グラフィカルなコンソールで簡単に運用担当者が問題などを切り分けることができる。すでに運用管理を行っている300の仮想マシンのうち、ミッションクリティカルなシステムからティントリのストレージに移行が進んでいるという。

同部ネットワーク技術課長の奥裕之氏は、「阪神タイガースの優勝の時などはECサイトなどに非常に大きなトラフィックが集まります。そういう状況で『この仮想マシンが遅いのは何故?』と聞かれても、今ならTintriのGUIで確認すればすぐに回答できます」と語る。

さらに森本氏は「ミッションクリティカルなシステムだけに、ユーザーから“スナップショットからファイルを復元したい」というリクエストを受けた際、これまでのストレージだと復旧するのに2~3時間はかかっていました。でもTintriであれば数分で終わるのです。これは直ぐにでもデータを復旧したいお客様にはとても大きな違いです」と話す。

また、ストレージの利用状況について現時点の分析だけではなく未来の利用予測を行うことができるのも大きな利点だ。

「これまでの利用状況からデータの増加や性能の予測を行えるので、いつ頃に容量を増強しなければいけないかなどがわかり、計画的に運用管理を進めることができます」と森本氏。これはTintriアナリティクスの機能として標準で提供されている。

驚くほど簡単な設定作業、そして重複排除の結果

今回のシステム導入に際し、従来のストレージシステム導入の経験から様々なパラメーターの設定が必要だと思っていたが、実際は非常に簡単であったという。奥氏は「Tintriの場合は本当に少ない情報を入れるだけで、あとは自動で設定が終わってしまうのです。実質、設置から稼働するまでに1時間程度というところでしょうか」と、Tintriの導入が予想以上に簡単だったという経験を語ってくれた。

「私が個人的にもっとも驚いたのはデータ削減の結果ですね。結果についてメーカーが言う約2倍というのは理論値であって実際は1.2倍くらいだと思っていました。でもTintriの場合は、メーカーの言う通りのデータ削減が実行されていたのには驚きました」と語る森本氏。データ削減は直接使える容量に影響を与えるため、この違いは非常に大きい。

また、ユーザーがストレージに求めるのは処理速度や容量だけではない。アプリケーションがあらかじめ決められたQoSの通りに動いて、はじめてビジネスを担うことができる。

「ティントリのストレージであればIOPS上限のQoSだけではなく、これより下がらないというIOPS下限値を設定できるので、お客様の要求に確実に応えることができます」と奥氏は語る。サービスを提供する側にとって顧客が必要とするサービスの品質をきめ細かく提供できるのは差別化に大いに役立つだろう。

今後はミッションクリティカルな仮想サーバーのストレージとしてだけではなく、アイテックが提供する様々なアプリケーションのクラウドストレージとして、Tintriの活躍の場を拡げて行く予定だという。

「Tintriのグラフィカルな管理ツールなら性能が落ちた仮想マシンの原因をストレージ側から直ぐに解明できます。これで運用管理者の負担が軽減されます。」

※本カタログに用いられている商標は全て該当する会社が権利を保有しています。

仮想環境

- ・ VMware

適用システム概要

- ・ マネージドホスティングサーバーなど

ソリューション

- ・ Tintri VMstore T885

主な用途

- ・ マネージドホスティングサーバーのプライマリストレージとして採用

interviewee of this article



アイテック阪急阪神株式会社
マルチメディア事業本部
IPソリューション部
ネットワーク技術課長
奥 裕之 氏



アイテック阪急阪神株式会社
マルチメディア事業本部
IPソリューション部
ネットワーク技術課 主事
森本 健一 氏



info.japan@tintri.com | www.tintri.co.jp



販売パートナー：丸紅情報システムズ株式会社

お問い合わせ：プラットフォームソリューション事業本部

東 京：新宿区大久保3-8-2 新宿ガーデンタワー

03-4243-4210

大 阪：大阪市淀川区宮原1-6-1 新大阪ブリックビル5F

06-6395-5544

名古屋：名古屋市中区錦2-2-2 名古屋丸紅ビル8F

052-209-2411

<http://www.marubeni-sys.com/tintri/index.html>